



おいしさのみなもと

FEED ONE

2023年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2022年8月9日

フィード・ワン株式会社

東証プライム 証券コード:2060



2023年3月期 第1四半期 決算概要

FEED ONE

畜産飼料の販売価格上昇により増収も、原料価格高騰や販管費増加により大幅減益

(百万円, %)

	2022.3期 1Q	2023.3期 1Q	前年同期比
売上高	56,811	67,131	+18.2
売上原価	50,981	63,589	+24.7
販管費	4,405	5,243	+19.0
営業利益	1,424	▲1,700	-
経常利益	1,637	▲1,474	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,117	▲984	-

前年同期比

● 売上高

畜産飼料の販売数量増加および販売価格の値上げにより増収。

● 営業利益・経常利益

輸入とうもろこしの相場および物流費の上昇・急激な円安による売上原価の増加に加え、配合飼料価格安定制度の積立金増加による販管費の増加により大幅減益(損失計上)。



FEED ONE

2023年3月期 第1四半期 セグメントの状況

(百万円, %)

		2022.3期 IQ	2023.3期 IQ	
			増減額	前年同期比
飼料事業	売上高	46,925	56,998	+10,072 + 21.5
	セグメント利益	2,048	▲ 1,021	▲ 3,069 -
食品事業	売上高	9,266	9,525	+259 + 2.8
	セグメント利益	▲ 76	▲ 134	▲ 58 -
その他	売上高	619	607	▲ 11 ▲ 1.9
	セグメント利益	68	58	▲ 10 ▲ 14.6

(万吨, %)

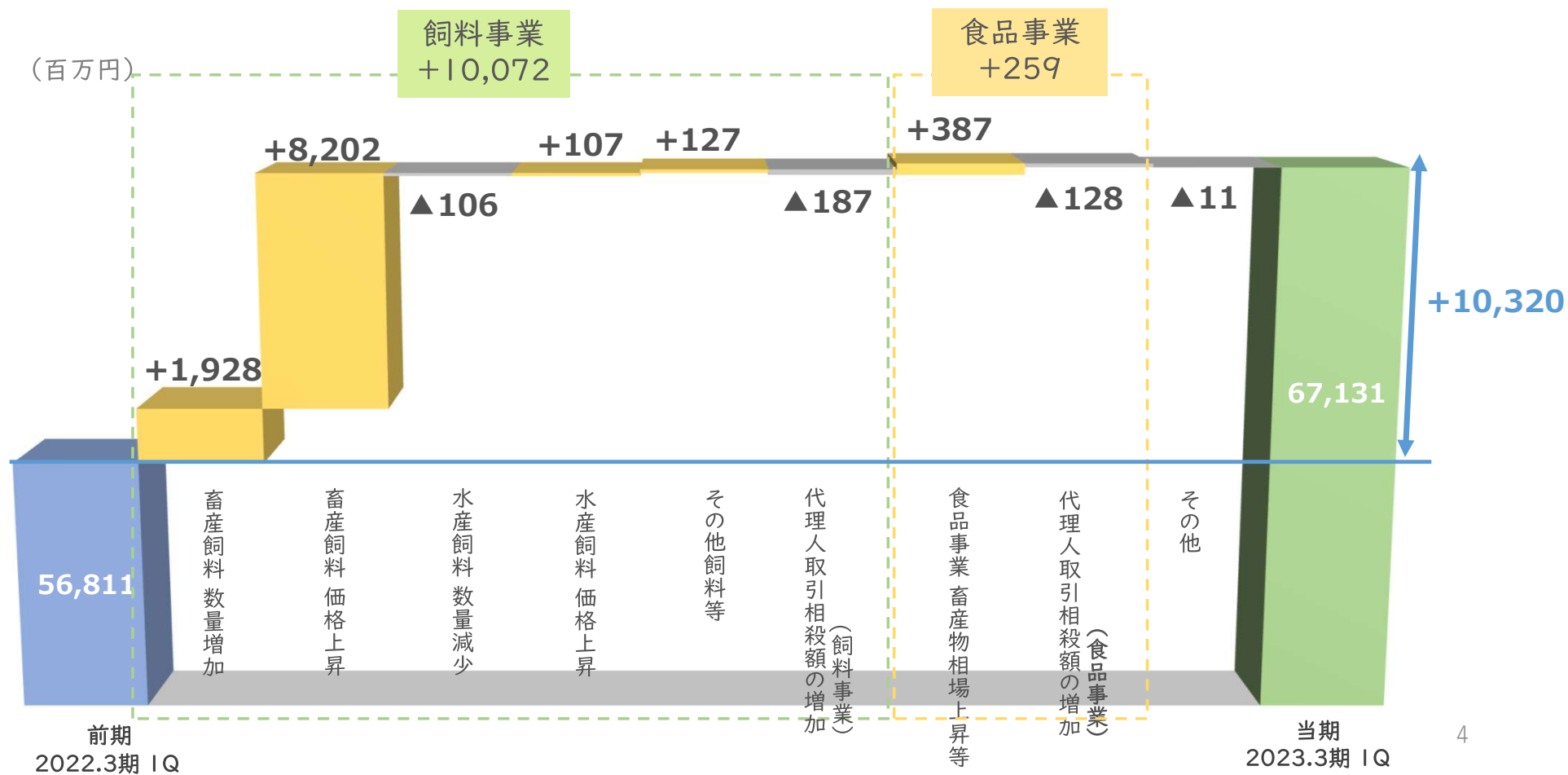
販売数量	2022.3期 IQ	2023.3期 IQ		
		前年同期比	コメント	
畜産飼料	86.3	88.1	+ 2.2%	採卵鶏用+4%、ブロイラー用+3%、豚用▲2%、牛用+4%
水産飼料	2.2	2.2	▲ 2.2%	海水魚用▲0.2%、淡水魚用▲13%



FEED ONE

売上高 増減要因

主に畜産飼料の数量増加・販売価格値上げにより増収

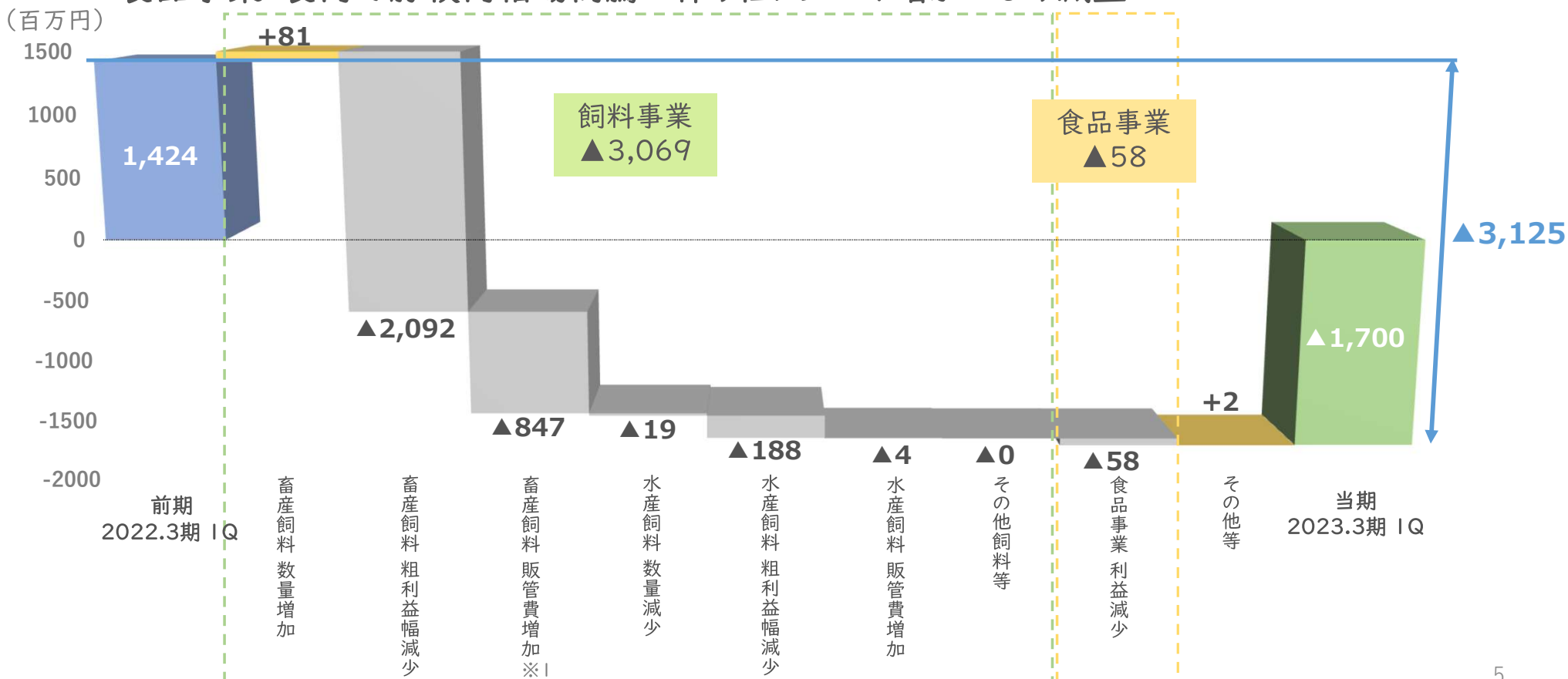




営業利益 増減要因

FEED ONE

飼料事業: 畜産飼料で原料価格高騰による粗利幅減少、飼料安定基金積立金増加等により減益
 食品事業: 食肉で豚枝肉相場高騰に伴う仕入コスト増加により減益



※ | 主に配合飼料価格安定制度の積立金増加▲763百万円 [前期:▲332百万円(400円/トン) → 当期:▲1,095百万円(1,252円/トン)]



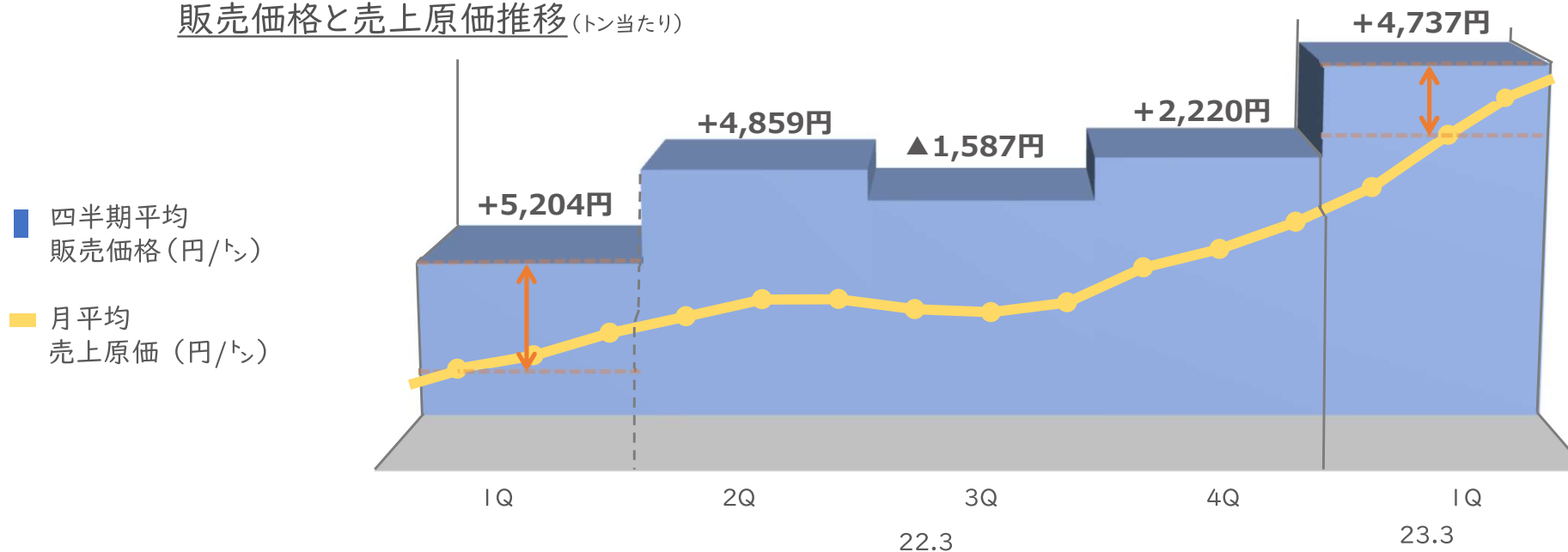
FEED ONE

畜産飼料の販売価格と売上原価推移

売上原価の増加額が販売価格の増加額を上回り、粗利益が大幅に減少

- ▶ 販売価格は原材料相場の変動に合わせて、四半期毎に改定を行う
- ▶ 製品原価における原材料費率は8割強、原材料の5割を占める輸入とうもろこし相場が前年同期を大きく上回っている

販売価格と売上原価推移 (トン当たり)



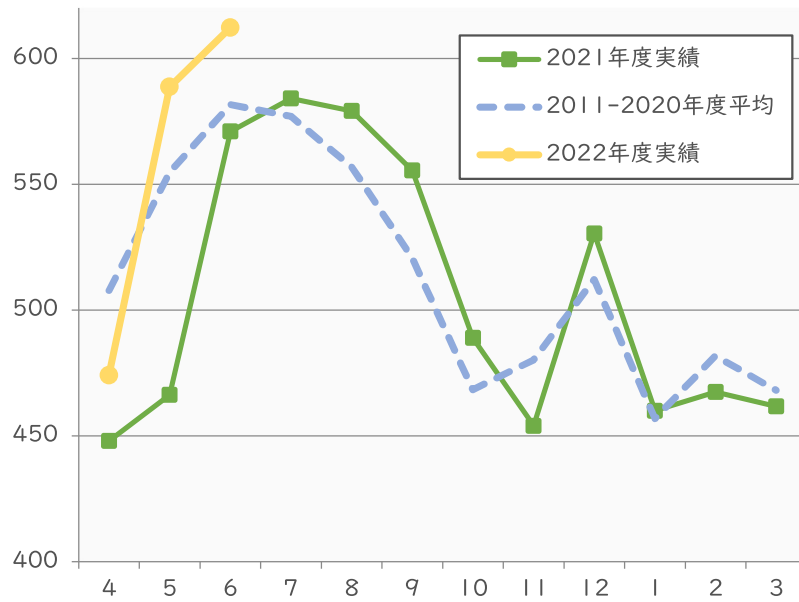


食品事業_畜産物相場の状況

FEED ONE

豚肉相場は高値が続き収益悪化、鶏卵相場は前年を下回り収益改善。食品事業全体は減益

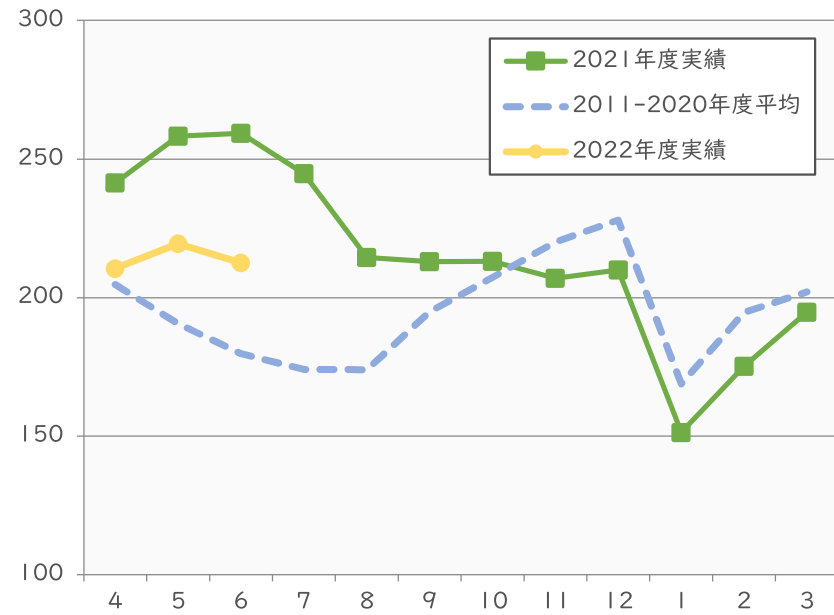
豚枝肉卸売価格(3市場・上物) (円/kg・税抜)



(出所:農林水産省「食肉流通統計」)

▶ 輸入豚価格高騰に伴う代替需要の影響で前年実績を上回る

鶏卵卸売価格(全農:東京M) (円/kg・税抜)



(出所:JA全農たまご(株)調べ)

▶ 生産量の回復により前年実績を下回るも、生産コスト上昇により高値圏で推移

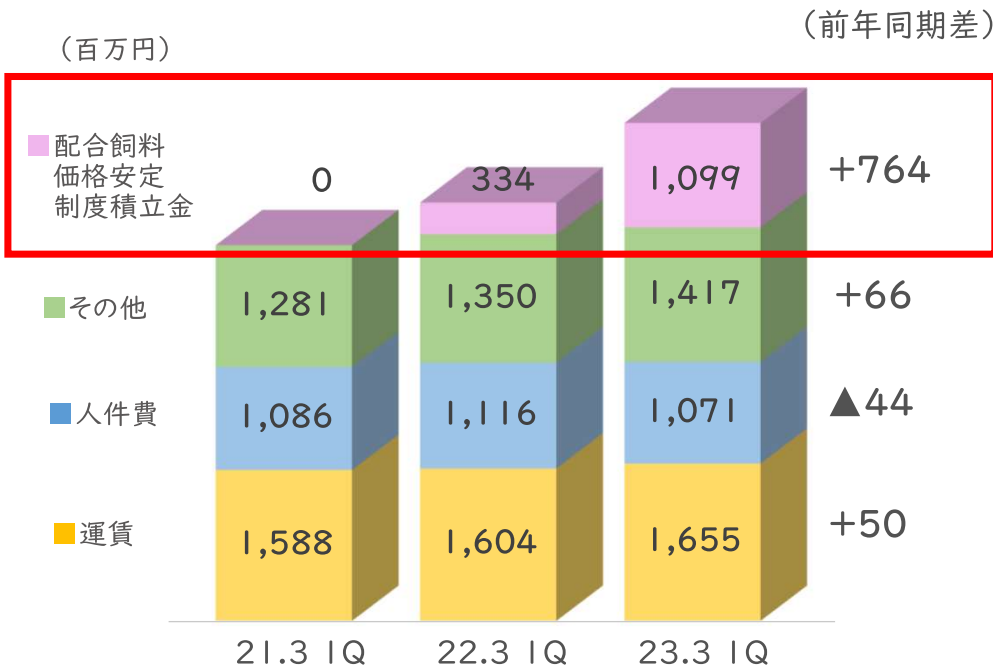


販管費詳細

FEED ONE

販管費

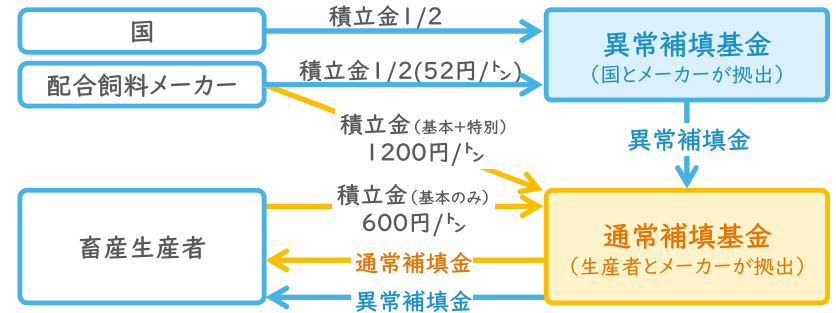
- ▶ 配合飼料価格安定制度の積立金増加
- ▶ その他_活動費、次期基幹システム構築費により増加



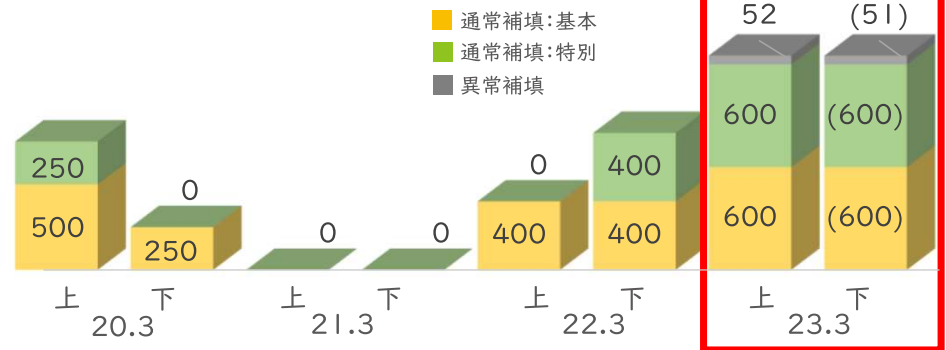
参考資料: 配合飼料価格安定制度の現状

- ▶ 飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和する目的
- ▶ 補填金発動により22.3期から積立金が再開、23.3期は単価増額、更に異常補填積立金が発生

制度の仕組み(例:2023年3月期1Q)



積立金推移(配合飼料メーカー)





2023年3月期 業績見通し



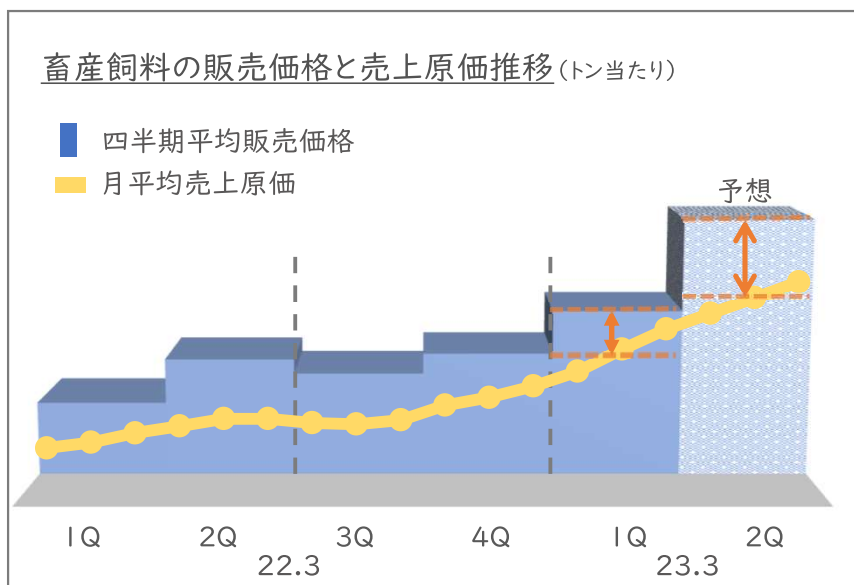
2023年3月期 業績予想

FEED ONE

期初予想から変更なし。7月以降の畜産飼料販売価格上昇と原価低減の取り組みにより、第2四半期は粗利益の大幅な改善が見込まれる

(百万円, %)

	2022.3期	2023.3期	前期比
売上高	243,202	301,000	+ 23.8
売上原価	220,490	275,300	+24.9
販管費	18,418	21,600	+17.3
営業利益	4,293	4,100	▲ 4.5
経常利益	5,067	4,000	▲ 21.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,659	2,500	▲ 31.7



販売数量	2022.3期	2023.3期		コメント
		前期比		
畜産飼料	352.1万トン	358.6万トン	+1.8%	採卵鶏用+1%、ブロイラー用+5%、豚用+1%、牛用+1%
水産飼料	9.3万トン	10.4万トン	+13.0%	海水魚用+13%、淡水魚用+12%



トピックス -気候変動への取り組み-



気候変動への対応 -TCFDレポート開示-

FEED ONE

2022年4月19日TCFD提言に賛同し、同年6月20日TCFDレポートを開示いたしました。

当社の事業は自然の恵みに大きく依存しており、気候変動によりさまざまな影響を受ける可能性があります。

そのため、持続可能な社会への貢献と企業の持続的な成長を目指し、重点課題である「事業を通じた環境問題解決」の一つに気候変動をテーマとして設定し、取り組んでいます。



当社は、中期目標:2030年Scope 1・2におけるCO₂排出量2020年度比 50%削減

長期目標:2050年バリューチェーンにおけるカーボンニュートラルの実現

中長期目標を掲げ、事業を通じた温室効果ガス削減への取り組みを加速させることで、パリ協定の目標達成と脱炭素社会の実現に貢献してまいります。



本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。

当資料に関するご質問・お問い合わせにつきましては、弊社のIR代表アドレス宛
(ir@feed-one.co.jp)にご連絡ください。